

### 3. アカガエル 2 種の繁殖

#### 1) 調査方法

田の入(瑞穂町)、坊(入間市)、西久保(入間市)、雑魚入(所沢市)の4カ所で、ニホンアカガエルとヤマアカガエルの産卵状況を調査した。調査は田の入が2003年と2004年の2年間、坊が2002年から2004年の3年間、西久保が2001年から2004年までの4年間、雑魚入りは2002年と2004年の2年間である。各年とも2種の産卵期に当たる2月から4月までの間、雨が降った日から一週間以内に調査地を訪れ、産卵数を記録した。4カ所の調査地の内、西久保においては毎回ニホンアカガエルとヤマアカガエルの卵塊を区別し記録したが、他の3カ所では区別しないこともあった。

#### 2) 調査結果

調査した中で最も早い時期の産卵記録は、ヤマアカガエルが雑魚入の2004年2月4日(1卵塊)、ニホンアカガエルが西久保の2003年2月15日(2卵塊)であった。一方、最も遅い時期の産卵記録は、ヤマアカガエルが田の入の2003年4月12日(8卵塊)、ニホンアカガエルが西久保の2001年4月18日(1卵塊)であった。このことから、狭山丘陵のアカガエルの産卵期はおおよそ2月初旬から4月中旬といえよう。

結果を表I-4に示した。調査した4カ所の内3カ所で明らかな産卵数の減少傾向がみられた。その減り方も年によって約3割から5割以上も減少している。この2種のアカガエルはい年の繁殖期間で雌1個体が1つの卵塊を産卵する。したがって調査結果の卵塊数はその年の雌の個体数の減少を表しており、今後の繁殖への影響が心配された。

ニホンアカガエルとヤマアカガエルの卵塊を区別し記録した西久保の結果を表I-5に示した。

ニホンアカガエルとヤマアカガエルが産卵した割合は毎年約2:8であった。前述のように、この2種のアカガエルは産卵期間中雌1個体が1つの卵塊を産卵する。このことから、西久保田んぼ周辺においては、ニホンアカガエルに比べヤマアカガエルの方が多く生息しているものと考えられる。また、産卵数はニホンアカガエルとヤマアカガエルの別なく、ともに年を追って減少傾向がみられた。

ニホンアカガエルとヤマアカガエルが同所的に生息する場合、一般的にはニホンアカガエルとヤマアカガエルの産卵の開始は、同時もしくはニホンアカガエルの方が早いといわれている。今回の調査ではその逆で、ヤマアカガエルの方が同時もしくは早い傾向が見られた。産卵の終了をみてもヤマアカガエルの方がやや早い傾向が見られた。

2種の産卵状況を表すため、表I-5中にその年に産卵する卵塊の半数を超えた産卵日を表示した。ヤマアカガエルは毎年産卵期間の初期に半数以上の産卵を済ませる傾向が見られた。一方、ニホンアカガエルは、産卵期全体を通じて産卵する傾向が見られ、2種の間では産卵のパターンが違っていた。

表 I - 4 アカガエルの産卵状況

年	田の入	坊	西久保	雑魚入
2001	—	—	301	—
2002	—	379	299	73
2003	90	206	132	—
2004	42	107	80	82

※ 数字は当該年に確認した総卵塊数を表す  
 ※ — は未調査を表す

表 I - 5 西久保における産卵数

観察月日	ニホンアカガエル			ヤマアカガエル		
	2002年	2003年	2004年	2002年	2003年	2004年
2月1日		0			0	
2月5日				初産卵		
2月8日	0		0	38	初産卵	0
2月9日		0			15	
2月15日		2	0		51	0
2月18日			0			0
2月19日		0			3	
2月23日			3			37
2月24日						
2月27日	初産卵					
2月28日	8			70		
3月3日	9	7		89	30	
3月4日						
3月6日			5			3
3月8日		2			5	
3月9日	1			4		
3月11日						
3月15日						
3月16日						
3月17日	7			22		
3月18日			1			5
3月21日			2			7
3月23日	22			1		
3月24日		8			1	
3月25日						
3月30日		7			0	
3月31日						
4月1日	11			17		
4月3日			6			10
4月12日		1			0	
4月18日			1			0
合計	58	27	18	241	105	62

※ 1. 数字は卵塊数を表す。卵塊数は、新たに確認した数を表す。  
 ※ 2. [ ] は、その年の産卵合計数の半数を超えた日を示す。  
 ※ 3. 空欄は調査しなかった日を表す。